

教育長 エッセイ

教育長 宮下和己



学校の運動部活動は、興味関心のある生徒が参加し、運動部顧問の指導下で、体力技能の向上を図るという目的以外にも、異年齢との交流の中で、生徒同士や生徒と教員等との好ましい人間関係の構築を図ったり、学習意欲の向上や自己肯定感、責任感、連帯感の涵養に資するなど、生徒の多様な学びの場として、教育的な意義は大きいものです。学習指導要領総則にも教育課程外の学校教育活動と位置付けされており、さらに、我が国のスポーツ振興を支えてきたという役割もあります。

運動部活動

一方、教育課題の複雑化・多様化や少子化が進展する中で、運動部活動においてもこれまで通りの運営体制の維持が難しくなっており、さらには存続さえ危機的状況となっている学校もあります。

このような中で、平成30年3月、スポーツ庁から「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が出されました。国が活動日・時間や大会の見直しなど具体的に提起するのは、おそらく初めてではないかと思えます。本県では、国に先駆け「県中学校運動部活動指針(平成29年1月)」を策定し取り組んできましたが、国のガイドラインを受けて、「和歌山県運動部活動指針(平成30年4月)」を改めて策定しました。

最近、部活動は、教員の多忙化と関連させて述べられる場合が多いのですが、指針

では、指導の在り方やスポーツ医・科学など様々な観点から運動部活動の方向性を示しています。学校関係者のみならず、保護者、地域の方々にご理解いただき、学校で持続可能な運営体制を整え、適切な運動部活動が実施されることによって、子供たちが生き生きと部活動に取り組み、学校生活がより豊かなものとなってほしいと思います。本県では、現在すべての学校で「きのくにコミュニティスクール」を導入するよう進めています。それぞれの学校で部活動についての議論をぜひとも深めてください。

私事ですが、部活動顧問の経験は、教員として、人として本当に成長させてくれたと思います。そして、今も続く教え子たちとの交流は私の宝物です。

和歌山県教育広報紙
第39号
平成30年[2018]7月

輝く、紀の国の

Wakayama Prefecture education public relations paper

教育

表紙写真：美浜町立ひまわりこども園

Index

- P.4 和歌山県スポーツ推進計画
和歌山県運動部活動指針
- P.5 夏休み展示イベント
県立紀伊風土記の丘・県立近代美術館・県立自然博物館・県立博物館・県立図書館
- P.6 きのくにコミュニティスクール
(串本古座高等学校)
- P.7 きのくに教育めぐり(日高町教育委員会)

おしらせ

奨学のための給付金(高校生等奨学給付金)制度について

高校生等の授業料以外の教育費を軽減するため、道府県民税所得割及び市町村民税所得割が非課税である世帯に対し、奨学のための給付金(高校生等奨学給付金)を給付します。

【申請期間】平成30年7月2日(月)～平成30年7月31日(火)

【対象】平成30年7月1日現在、以下の要件を全て満たしている方(世帯)

- ①保護者(親権者)等が生活保護を受給又は、平成30年度の道府県民税所得割及び市町村民税所得割が0円(非課税)であること
- ②保護者(親権者)等が和歌山県内に住所を有していること
- ③高校生等が高等学校等就学支援金又は学び直し支援金支給の資格を有する者であること

【申請方法】

・県内の学校へ通学されている方は学校を通じて、提出してください。

通学されている高等学校等で申請書を受け取り、必要書類を添付の上、学校へ提出してください。

・県外の学校へ通学されている方は県へ直接申請してください。

申請書は下記問い合わせ先で直接入手するか、郵送を希望される場合、下記の問い合わせ先までその旨連絡してください。申請書等は下記ホームページアドレスからダウンロードも可能です。

【ホームページ】

公立：<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/500600/d00153447.html>

私立：<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/022100/gakkou/kyuhukin.html>

問い合わせ 【公立】県生涯学習課 奨学班 ☎073-441-3663 【私立】県文化学術課 学術振興班 ☎073-441-2098

教育ラジオ番組
定期便
教育の窓

放送日時 4月から2月までの毎月第2・第4土曜日 8:45～9:00
(7月第4土曜日、12月第2土曜日、1月第1土曜日は除く)

- WBS和歌山放送
- 8/11 ●県立自然博物館 特別展「小さな粘菌の大きなワンダーランド」
 - 8/25 ●地域から学ぶ伝統音楽「ふるさとと尺八」
 - 9/ 8 ●きのくにコミュニティスクールを支える地域づくりに向けて
 - 9/22 ●教員の資質向上とミドルリーダー育成のための取組
 - 10/13 ●すさみ町「放課後子ども英語教室の取組」
- 今後の放送予定

教育テレビ番組
はばたく紀の国
～教育は今～

放送日時 9月から3月の毎月第1・第3日曜日 10:30～10:50
(9月第1日曜日、1月第1日曜日は除く)

- テレビ和歌山
- 9/16 ●和歌山県庁舎建築80年～活用することで守り伝える文化財～
 - 10/ 7 ●あつまれ!GEOキッズ～地学っておもしろい!～
 - 10/21 ●小規模校をつなぐ「集合学習」～テレビ会議システムの活用～
 - 11/ 4 ●和歌山の子供たちに確かな学力を!～自ら進んで学ぶ授業づくりを通して～
- ※すべての番組に手話通訳が付きまます。
- 今後の放送予定

※テレビ・ラジオとも、これまでに放送した番組については、和歌山県教育委員会ホームページで公開しています。和歌山県教育広報番組QRコード
※都合により、放送内容が変更になる場合があります。

和歌山県 教育放送番組 検索

和歌山県教育委員会事務局 総務課 〒640-8585 和歌山市小松原通1-1 TEL.073(441)3641 FAX.073(432)4517

和歌山県教育委員会では、今回紹介した内容以外にも、様々な取り組みを行っています。詳しくは、和歌山県教育委員会のホームページをご覧ください。また、皆さまのご意見・ご要望をお待ちしています。

和歌山県教育委員会 検索



特集 P.2-3

「未来を拓くひとを育む和歌山」の実現をめざして

～「第3期和歌山県教育振興基本計画(2018年度～2022年度)」を策定しました～

「未来を拓くひとを育む和歌山」の実現をめざして

～「第3期和歌山県教育振興基本計画(2018年度～2022年度)」を策定しました～



子供たちを取り巻く環境が大きく変化しています

近年、少子高齢化やグローバル化の進展、高度情報化の加速など、社会情勢が大きく変化しているほか、学校や家庭・地域においても、不登校児童生徒数の増加や教員の急激な世代交代、家庭の教育力の低下、地域のつながりの希薄化など、様々な課題が生じています。

和歌山県の教育の取組をまとめました

和歌山県は、2017(平成29)年3月に今後10年間の道しるべとなる「和歌山県長期総合計画」を策定しました。その中で、教育分野の将来像は「未来を拓くひとを育む和歌山」と定めています。そして、その将来像を実現するための5年間の計画として、その方針や重点的に実施する取組をより具体的に定めた「第3期和歌山県教育振興基本計画」を2018(平成30)年3月に策定しました。

5つの基本的方向に沿って28項目の取組を定めています

「第3期和歌山県教育振興基本計画」では、本県がめざす将来像の実現に向け、教育の取組を5つの基本的方向に沿って28の項目に整理しています。そして、それぞれの項目ごとに現状と課題を分析した上で、方針を定め、重点的に実施する取組を具体的に記載しています。また、実施した成果を図る具体的な指標も設定しています。計画の全体の内容については、県教育委員会ホームページに掲載しています。



第3期和歌山県教育振興基本計画 [検索](#)

基本的方向1 未来を拓く「知・徳・体」をバランスよく備えた人づくり

- 1 確かな学力の向上
- 2 豊かな心の育成に向けた道徳教育の充実
- 3 健やかな体の育成
- 4 ふるさと教育の推進
- 5 グローバル人材の育成
- 6 キャリア教育・職業教育の推進
- 7 幼児期の教育の充実
- 8 特別支援教育の充実



◀ 小学校の授業

〈主な目標〉

- 全国学力・学習状況調査 …… 全ての教科で20位以内
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と答える児童生徒の割合 …… 小・中学校とも100%
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 …… 男女とも 小学校10位以内 中学校15位以内
- 高校生の県内就職率 …… 86%

基本的方向2 信頼される質の高い教育環境づくり

- 1 いじめへの対応
- 2 不登校への対応
- 3 教職員の資質・能力の向上
- 4 教職員の勤務環境の整備
- 5 教育の情報化の推進
- 6 学校の適正規模化への対応と施設環境の充実
- 7 防災・安全教育の充実
- 8 高等教育機関による地域活性化の推進
- 9 様々な教育への取組



◀ 地域と連携した避難訓練の様子

〈主な目標〉

- いじめ解消率 …… 100%
- 部活動における休養日を設定している学校の割合 …… 100%
- 学校と地域が連携した避難(防災)訓練の実施率 …… 小学校90% 中・高等学校80%
- 本県の18歳投票率 …… 60%



基本的方向3 子供たちの成長を支えるコミュニティづくり

- 1 きのくにコミュニティスクールの推進
- 2 家庭・地域の教育力の向上
- 3 青少年の健全育成と男女共同参画の推進



◀ 地域行事の様子

〈主な目標〉

- 「きのくにコミュニティスクール」導入率 …… 100%
- 今住んでいる地域の行事に参加する児童生徒の割合 …… 小学校70% 中学校50%

基本的方向4 生涯にわたる学びやスポーツ・文化芸術・文化遺産に親しむ社会づくり

- 1 生涯学習の推進
- 2 スポーツに親しむ環境づくり
- 3 競技スポーツの推進
- 4 文化芸術に親しむ環境の充実
- 5 文化遺産の保存と活用の推進



◀ 小学生対象の鑑賞会

〈主な目標〉

- 県立図書館における資料貸出冊数(年間) …… 600,000冊
- 成人の週1回以上のスポーツ実施率 …… 65%

基本的方向5 人権尊重の社会づくり

- 1 学校における人権教育の推進
- 2 地域における人権教育の推進
- 3 学びのセーフティネットの構築



◀ ファシリテーター養成講座の様子

〈主な目標〉

- 自分には、よいところが「あると思う」「どちらかといえば、あると思う」と答える児童生徒の割合 …… 小学校80% 中学校75%
- 「地域ふれあいルーム」や「子どもの居場所づくり」を開設している市町村の割合 …… 100%

和歌山県スポーツ推進計画の策定～豊かなスポーツライフの創造をめざして～

元気で明るく豊かで活力のある和歌山の実現に向けて、スポーツの振興は不可欠です。和歌山県教育委員会では、2015年に開催した「紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会」によって培われた人材・組織・施設等を最大限に活用し、「スポーツの日常化」につなぐことに力を置いた「和歌山県スポーツ推進計画」を今回策定しました。

■本計画がめざす社会

全ての県民一人一人が、それぞれのライフステージにおいて、関心・適性等に応じ、自主的・自発的にスポーツにふれあい、日常的にスポーツに親しむ、楽しむ、支えるなどの活動を通じて、生涯にわたり生活の質の向上が図れる社会の実現をめざします。

■基本方針

- 学校と地域における子供のスポーツ環境の充実
- ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
- 世界の舞台で活躍できる競技者の発掘・育成・強化
- 全国大会・国際大会の開催及び国際競技大会等に係るキャンプの誘致による県民のスポーツに対する意識や関心の向上と県内各地域の活性化



和歌山県教育委員会 スポーツ課

和歌山県運動部活動指針～豊かなスポーツライフの実現～

運動部活動は、生徒の心身にわたる成長と豊かな学校生活の実現に大きな役割を果たしています。

生き生きと運動部活動に取り組むことで、スポーツの楽しさや喜びを存分に味わったり、互いに協力し合って友情を深めたりして、豊かなスポーツライフの実現につなげていけることを願っています。

和歌山県 運動部活動指針

和歌山県 運動部活動指針の 3本柱

- ① 学校教育の一環としての運動部活動
運動部活動の意義や学校・家庭・地域の連携・協力等
- ② 運動部活動を支える環境の整備
指導体制づくりや保護者会の設置・活性化等
- ③ 発達の段階に応じた望ましい指導の在り方
適切な休養日や活動時間の設定、参加する大会の精査、効果的な指導法や安全管理と事故防止の徹底等

ゴールデンキッズ発掘プロジェクト

優れた素質を有する子供たちを早期に発掘し、将来、国際舞台で活躍できる競技者を育成します。本年度も小学校3、4年生を対象に募集します。たくさんのご応募お待ちしております！

体力測定会

紀北会場 紀南会場

日程／10月27日(土)・28日(日) 日程／11月23日(金)
場所／和歌山ビッグウエーブ 場所／白浜町立総合体育館

募集期間 8月24日(金)～9月21日(金)



第2回 わかやまりレーマラソン パンダRUN

子供からアクティブシニアまで気軽に参加できるレーマラソンを今年も開催します。多くの皆さまのご参加をお待ちしています!(パンダの仮装大歓迎!!)



開催日
12月1日(土)

コース
田辺スポーツパーク特設コース

種目 A ファミリー(1.5km)
B ハーフリレーマラソン(21km)
C フルリレーマラソン(42.195km)

参加料 A 無料 B・C 小・中学生 1,000円
高校生以上 2,000円

募集期間 6月18日(月)～10月26日(金)

その他 会場内でマスターズスポーツ体験会やキッズエリア、グルメブースの開設も予定しています。

わかやまりレーマラソン～パンダRUN～

展示 イベント

夏休みは、
企画展に行ってみよう!

いずれも、休館日は月曜日(祝日の場合は翌平日)です。
※県立紀伊風土記の丘・県立近代美術館・県立自然博物館・県立博物館は、有料ですが、高校生以下・65歳以上・障害者の方は無料です。詳しくは各館ホームページをご覧ください。

県立紀伊風土記の丘 和歌山市岩橋1411 ☎073-471-6123



夏期企画展
「学校にあるたからものⅡ」

会期 7月21日(土)～9月2日(日)

地域の人々から学校に寄贈され、教材として活用されてきた多くの昔の道具類から、地域の特徴がわかる道具を展示します。



秋期特別展
「黒潮の海に糧をもとめて
—古墳時代の海の民とその社会—」

会期 9月29日(土)～12月2日(日)

漁ろうや製塩を行っていた海の民の姿を、古墳時代を中心とした海の生産用具と関連遺物から紹介します。

県立近代美術館 和歌山市吹上1-4-14 ☎073-436-8690

企画展 なつやすみの美術館8「タイムトラベル」

会期 7月7日(土)～9月2日(日)

今回展示の作品の中には、過ぎ去った昔や想像された未来が留められています。時間の旅へ出かけましょう。



柴川敏之「2000年後に発掘された絵画の化石」



吹田文明「銀河の創世」

県立自然博物館 海南市船尾370-1 ☎073-483-1777

特別展 「小さな粘菌の大きなワンダーランド—南方熊楠を魅了した生き物—」



会期 7月21日(土)～9月2日(日)

世界的な博物学者、南方熊楠の粘菌研究をはじめとして、現代の応用研究や粘菌をモチーフにしたアートまで、粘菌の魅力について紹介します。

県立博物館 和歌山市吹上1-4-14 ☎073-436-8670

和歌山城天守閣再建60周年記念夏休み企画展 「城下町和歌山を歩こう」

会期 7月14日(土)～8月26日(日)

江戸時代には日本有数の人口を誇った城下町和歌山。城下町和歌山の歴史を語る文化財から、当時を生きた人々の生活や文化を紹介いたします。



天保年代物売図(和歌山県立図書館蔵)
城下町和歌山で活躍した商人が描かれています。

県立図書館 和歌山市西高松1-7-38 ☎073-436-9500

7月中旬から例年通り、児童室展示を行います。自由研究や調べ学習に活用してください。



「サマー遊ing2018」

会期 7月24日(火)～27日(金)

ウミガメの赤ちゃんとふれあうことで和歌山の海を学ぼう! おもしろ科学教室や貝殻細工教室、勾玉作り教室なども開催します。

「手づくり紙芝居コンクール」

募集期間 7月20日(金)～9月9日(日) 最終審査会・表彰式 11月11日(日)



和歌山をテーマにした紙芝居を募集しています。身近なふるさとを日本の誇る文化である紙芝居にしてみませんか。最終審査会では、Big-U(田辺市)にて制作者が美演を行います。

「図書館で涼もう!2018」

夏休みには次のイベントも行います。詳しくはホームページで。

①紙芝居を作ろう! 日時 [本館]8月1日(水) 13:30～16:00

[紀南]8月7日(火) 13:00～15:30

②手話にふれよう! 日時 8月22日(水) 14:00～15:00

各館駐車場の情報

駐車可能台数(一般車)

| 館名 | 県立近代美術館・県立博物館 | | |
|-------|---------------|---------|------------|
| | 90台 | | |
| 収容台数 | 2時間以内 | 以後30分ごと | 1日最大 |
| | 館利用者 | 無料 | +100円 700円 |
| 駐車場のみ | 300円 | +100円 | 1,200円 |

| 館名 | 県立紀伊風土記の丘 | 県立自然博物館 | 県立図書館 |
|-------|-----------|---------|-------|
| 収容台数 | 80台 | 54台 | 77台 |
| 駐車場料金 | 無料 | | |

歩いて回れる! 自転車で回れる!
まちなかの博物館 美術館 をめぐろう!



市内5館相互割引

和歌山市内5館で相互割引が適応されます。1館目入館から3日以内であれば、2館目以降は、割引金額で入館できます。詳しくはWebページで確認してください。



わかやままちなかミュージアムガイドQRコード

きのくに

コミュニティスクール

vol.03
串本古座高等学校

「きのくにコミュニティスクール」とは、学校運営協議会を設置した学校(コミュニティ・スクール)とそれを支える既存の「きのくに共育コミュニティ」等との連携・協働により、社会総掛かりで教育を実現する仕組みです。

平成29年度から3年間で県内全ての公立学校に「きのくにコミュニティスクール」を導入します。県立学校は平成30年度に全て導入しました。

串本古座高校地域協議会と学校運営協議会(コミュニティ・スクール)

平成28年7月に串本町、古座川町の関係者が集まり、串本古座高校地域協議会が発足しました。平成29年度には串本古座高校学校運営協議会も設置され、活動を始めました。

両協議会から出た意見を取り入れ、昨年度は中学校長や中学校保護者を対象とした学校説明会を開催しました。今年度は、地域協議会と連携した生徒の学習の場である「くろしお塾」を始めています。



「マリンスポーツ」の授業の様子



「海洋環境」の授業の様子



CGS鉄道班による啓発ビデオ制作
(JRの避難訓練に参加)



「くろしお塾」の「数学質問受付講座」の様子

地域まるとキャンパス構想

「地域と一体となった特色ある学校づくり」「地域に貢献できる人材の育成」という思いのもと、平成29年度から「地域まるとキャンパス構想」を立ち上げました。これは、地域の教育資源を活用し、地域活性化に貢献する人材の育成を目的としたものです。

特に本校グローバルコースでは、地元ダイビング協会と協力した「マリンスポーツ」、地域の特色や魅力を自然科学分野から学ぶ「海洋環境」など、様々な特色ある授業を行っています。また、このグローバルコースでは、平成29年度から、全国募集を行い、県外の生徒と地元の生徒が共に学んでいます。

地域貢献を目的としたCGS(地域包括支援部)では、地域の方々と協力して、「まぐろ」や「ゆず」などの地域産品を使った商品の開発、JRとコラボした防災への取り組みなど、特色ある活動を行っています。



これからの取り組み

学校設定科目やCGSの活動では、今後、和歌山大学や早稲田大学、トルコ大使館などとコラボした取り組みを進めていきます。また「くろしお塾」では、英語検定の受検をめざす講座など、地域の小・中学生も参加できる講座を広く展開していきたいと思っています。小・中・高等学校がコミュニティ・スクールとして地域とともに一体となり活動を進めることで、串本古座高校が地域活性化の核となる存在になればと考えています。



CGSトルコ班によるシミット作りと文化祭での販売

きのくに 教育めぐり 教育長挨拶

今回は

日高町教育委員会



日高町は、黒潮の影響を受ける豊かな漁業と平野部の肥沃な耕地があり、山間部の果樹栽培などの農業が息づく、自然と人が結び合う町です。

本町は、就学援助制度や学童保育などの子育て支援に力を入れており、年少人口比率は全国平均及び県内平均を上回り、総人口数は増加傾向にあります。

町の中央部に中学校、その周囲に3小学校が位置し、小学校では定期的に合同行事を実施するなど、連携がとりやすい環境にあります。

家庭や地域と学校間の連携を大切に教育環境の維持に努め、地域社会を愛し、次世代を担う心豊かな青少年を育成するための教育活動を展開しています。

日高町教育委員会 教育長 玉井 幸吉

旅する蝶～渡り蝶・アサギマダラ～



渡り蝶アサギマダラ



観察会

そのかわいらしく美しい姿からは想像もつかない過酷な旅をする渡り蝶・アサギマダラ。秋の南下移動時には、本町にも飛来し、多くの研究者や愛好家が訪れます。

生命の尊さや自然の素晴らしさを体感してもらうため、飛来時期に町内児童を対象とした観察会を毎年、実施しています。

昨年5月には、各学校にこの蝶の好むフジバカマの苗を児童生徒たちが植栽し、秋にはアサギマダラが日高中学校を訪れてくれました。

勇気の人 国境を越えた思いやり

1957年2月10日、日ノ御崎沖合にて、嵐の中、燃え上がる船から日本人を救助しようと試み、亡くなったデンマーク船の機関長ヨハネス・クヌッセン氏。氏の慰霊碑には今も、地域住民の方が献花を絶やさず、氏の救命艇が静かに保管されています。

昨年、クヌッセン氏殉難60周年記念式典を開催し、式典会場と3小学校で、バルーンリリースを行いました。「クヌッセン機関長」絵画コンクールには、町内の小中学生から、思いやりや優しさが詰まった素晴らしい作品の応募が数多くありました。

これからも、昨年で150年を迎えた日本とデンマークの友好関係を深めつつ、「人を思う気持ちに国境はない」ことを教えてくれた氏の尊い行為を、次代の子供たちに伝えていきたいと思っています。



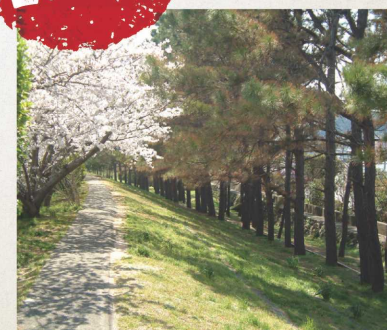
クヌッセン救助艇



クヌッセンバルーンリリース

日本遺産に
認定

「百世の安堵」～津波と復興の記憶が生きる広川の防災遺産～



土で固めた広村堤防



避難場所となった広八幡神社

「稲むらの火」で有名な広川町のストーリー「百世の安堵」～津波と復興の記憶が生きる広川の防災遺産～が和歌山県として4件目の日本遺産に新たに認定されました。

広川町の海岸には、見上げる程の土盛りの堤防、沖の突堤、海沿いの石堤と多重防御システムが構築されています。江戸時代、津波に襲われた人々が復興を果たしたこの町に、日本の防災文化の縮図が浮かび上がります。防災遺産は、世代から世代へと災害の記憶を伝え、今も暮らしの中に息づいています。